

## 授業科目

## 保健・医療・福祉連携学特論

担当教員名 真柄 彰	対象学年	1	対象学科	保健学・健康科学・社会福祉学・医療情報
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

## 授業の概要

我が国では、保健医療福祉領域はひとつの分野と考えられ、その分野の専門職は連続性のある統合した医療・福祉サービスの提供を求められている。患者・対象者・高齢者・障害者に対して多様な専門職が情報を共有し、全人的な医療と福祉サービスを実行するために

(1) 保健医療福祉領域におけるそれぞれの専門職種の役割を理解する。(2) 患者・対象者への対応の際に、それぞれの専門職種の連携に必要なチームアプローチについて学ぶ。

学部で学部生、大学院生、他大学の学生、海外の学生を対象として同時に行われている「連携総合ゼミ」に参加してグループワークを行いながらこれを学ぶ。

## 授業の目的

QOL サポーターとしての専門職への円滑な導入を図るために、異なる職種との学生とお互いの専門性・志向性を考慮しながら連携・協働し、対象者の真のニーズを把握して支援策を企画・立案することが目的である。

対象者のQOLを支えるためには異なる専門職との密接な連携が必要であることを理解するとともに、地域における社会資源や専門職、及び専門機関（医療、福祉、保健など）のネットワークの重要性を理解し、将来の実践の基礎的能力・態度を身につける。

## 学習目標

1. 対象（者）への評価を実施できる。
2. 他職種の専門性、志向性に基づいた評価と自らのそれらの差異を識別できる。
3. 対象（者）の評価・アセスメントの結果を説明できる。
4. 他職種の学生と検討して対象（者）のニーズを抽出できる。
5. 検討結果に基づき、協働して対象（者）へのアプローチを企画できる。
6. 対象（者）のニーズに対する他職種のアプローチの特徴と自らのそれとの差を指摘できる。
7. 支援計画に対象（者）の意見を反映させること

## 授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	連携総合ゼミオリエンテーション（全体）	講義 9月4日（月）2限	真柄 彰、各学科教員 他
2	検討事例の紹介（グループ別）	講義 9月4日（月）3限	真柄 彰、各学科教員 他
3	検討事例の調査（グループ別）	グループワーク 9月4日（月）4限	真柄 彰、各学科教員 他
4	検討事例の分析（グループ別）	グループワーク 9月5日（火）2限	真柄 彰、各学科教員 他
5	検討事例の分析（グループ別）	グループワーク 9月5日（火）3限	真柄 彰、各学科教員 他
6	検討事例の分析（グループ別）	グループワーク 9月5日（火）4限	真柄 彰、各学科教員 他
7	検討事例の分析（グループ別）	グループワーク 9月6日（水）2限	真柄 彰、各学科教員 他
8	検討事例の分析（グループ別）	グループワーク 9月6日（水）3限	真柄 彰、各学科教員 他
9	検討事例の分析（グループ別）	グループワーク 9月6日（水）4限	真柄 彰、各学科教員 他
10	検討事例のまとめ（グループ別）	グループワーク 9月7日（木）2限	真柄 彰、各学科教員 他
11	検討事例のまとめ（グループ別）	グループワーク 9月7日（木）3限	真柄 彰、各学科教員 他
12	検討事例のまとめ（グループ別）	グループワーク 9月7日（木）4限	真柄 彰、各学科教員 他
13	検討事例の発表準備（グループ別）	グループワーク 9月8日（金）2限	真柄 彰、各学科教員 他
14	検討事例発表会参加と発表（全体）	発表会参加と発表 9月8日（金）3限	真柄 彰、各学科教員 他
15	リフレクション（全体）	リフレクション 9月8日（金）4限	真柄 彰、各学科教員 他

## 使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	新潟医療福祉大学連携総合ゼミ学生ガイド	真柄 彰、松井由美子 他	新潟医療福祉大学連携教育推進委員会連携総合ゼミ部会	2016年	0円	パンフ
参考書	I P Wを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携	埼玉県立大学編集 他	中央法規	2009年	2,800円 + 税	大学図書を貸し出すこともできる
	新潟医療福祉大学仮想	真柄 彰 他	新潟医療福祉大学保健医療福	2012	0円	インターネットで

その他の資料	事例データベース		社連携教育研究センター	年		アクセス可能
--------	----------	--	-------------	---	--	--------

### 評価方法

事例検討結果に対するリフレクションのレポートを評価する。

### 履修上の留意点

学部生や他大学学生、外国の大学学部生とともにグループワークをおこなう。多くは学部4年生が中心である。大学院生、社会人として、経験から得ている知識や実力を発揮してもらいたいが、あくまで同一のチームの一員として対等な立場になるように心がけていただきたい。

業務の都合などで出席できない時限がある場合は他にも活動を延長している時限が同じ期間にあるのでそれに参加することにより振り代えることもできる。ただし初日と最終発表会には参加することが望ましい。またgoogle slideを使用しているグループの場合にはWebによる遠隔参加も一部可能である。

### オフィスアワー・連絡先

メールでの問い合わせは随時  
magara@nuhw.ac.jp (真柄 彰)  
研究室はL303